

## 地域要望

### かゆいところに手の届く仕組みを

### 発想の転換で要望に応えたい／町長



## 問

地域整備事業は合併前の旧佐賀町で事業推進してきたものであり、小災害等補助事業に計上出来ない事例に対して必要性を確認し、かゆい所へ手のとどく施策として地域要望に答えてきた事業である。合併後、大方地域2千万円、佐賀地域1千万円の、計3千万円の予算で地域要望に応えてきていると思うが、21年度の執行状況と事例別内容について聞く。

また平成21年度の補正予算

で地域活性化、きめ細やかな臨時交付金事業で3千万円の地域交付金事業費を計上しているが、黒潮町内61部落の区長からの地域要望は町道、集落内の生活道、用排水路の改修、受益者負担の伴う田畑の、のり面崩落等々、多岐に渡っている。

町長は日頃より行政が積極的に関わり、様々な地域要望に対し徹底的に地域支援を行えるよう迅速に対応処置の出来る仕組みをつくると言っているが、本来のかゆい所へ手がとどく施策としての地域整備事業へ、手厚い予算計上を、地域要望に応えるべきではないか。

## 答

### 下村町長

### 松田 大方まちづくり課長

21年度の執行状況と事例内容は385件の地域要望の内45件で全体の11・7%。

内容は町道、水路、舗装が14件、住環境対策の排水路関係12件、農道用排水路5件、農道整備3件、商工関係3件、部落道改修2件、教育委員会関連整備2件、林道整備1件、その他2件である。地域要望件数の一割強の実施状況である。

地域整備事業は基本的に一般財源で対応しており財政シミュレーションの示すとおり大型事業の実施計画もあり、手厚い予算計上での早期実施は無理である。

今後は財政状況を見ながら軽度な事業や、公益性上必要と認められる事業に対し、要望に応えられる様仕組みをつくる。



40年振りに行われた馬荷の山焼き